

# アドベンチャーキャンプ ～ワイルドキャンプ・サロマ湖の自然を再発見！～

## ■ 事業のねらい

サロマ湖周辺の自然環境を活かした体験活動を通じて、自然への愛着を深めるとともに参加者への自然環境保護への意識を高める。



- 実施日 平成24年9月15日(土)～17日(月) 2泊3日
- 参加対象 小学4年生～6年生 20名
- 参加実績 参加者：12名  
小4＝5名、小5＝3名、小6＝4名  
男子＝10名、女子＝2名
- 備考 活動場所：常呂少年自然の家  
北見市常呂町内 常呂郡佐呂間町内

## 1 事業実施の背景

日本では古来、豊かな自然の中、多様な地域性を持ち、海・山・森などの恩恵を受け、同時に災害に対する知恵なども培ってきた。このような、人と自然との関わり方は日本の文化とも言われている。しかしながら、近年、環境や自然の素晴らしさ、大切さ、怖さなどを意識・体験する機会が少なくなり、また同時に、地球温暖化や生物多様性の減少など、様々な地球環境問題も深刻さを増している。

このような状況を踏まえ本事業では、自然体験活動を通じて環境や自然の素晴らしさ、大切さなどを認識していくとともに、協力・共同して取り組む中で、参加者間のふれあいと自然環境保護への意識を高めることをねらいとする。

## 2 プログラムデザイン

	7:30	9:00	11:00	12:00	13:00	14:00	16:30	19:00	22:00	
9/17(土) 1日目					受付	開会式 サイクリング	ワッカ原生花園 観察	サイクリング 野外炊事	事前学習 ふりかえり	入浴 就寝
18(日) 2日目	朝食 活動準備	サイクリング (国道238)	登山 (幌岩山)	昼食	下山 (幌岩山)	サイクリング	サンゴ草観察 (キムアネップ)	サイクリング 野外炊事	事前学習 ふりかえり	入浴 就寝
19(月) 3日目	朝食 活動準備	サイクリング	カヌー体験 ライトコロ川 観察	サイクリング	昼食	閉会式	13:30 解散			

## ■ アクティビティについて



## ■ 意図

- 地域の自然環境や観光資源の現状理解や観察を通じて、自然環境保護への意識を高めるとともに、自然への愛着を深める。
- 体験活動や自然観察を通じて、「人と自然」の関係に加え、「人と社会」や「人と人」のつながりについての気づきや理解を深めるよう促す。

## ■ 留意事項

- 体験活動の安全確保に努めるとともに、参加者が自然環境保護への意識が高まるよう、事前学習や体験活動について綿密な行動計画を策定する。
- 参加者同士のコミュニケーションを図るため、多様な場面で交流する機会や、協力・共同して作業する機会を設けるようにする。

### 3 活動の様子



#### ■ 当日の様子

1日目、「ワッカ原生花園」の観察では、海水と汽水に挟まれた砂州から湧き出る「ワッカの水」の試飲や、地域ボランティアによる外来種除去と防風林清掃場所を見学しながら貴重な海岸草原の植物を観察した。事前学習では、絶滅危惧種に指定されているサンゴ草の再生に向けた取組みを学び、また翌日に向けた自転車の長距離移動や登山の留意事項と役割について話合った。

2日目、自転車で坂道の続く幌岩山登山口まで移動し、全員が山頂に到着すると、達成感を味わい、共感し合う様子が伺われた。帰路はサンゴ草群生地を観察し、また地域自然観光資源である木の葉に覆われた「木のトンネル」を経由して自然の家に着した。事前学習では、地域の大雨災害による冠水被害と放水路建設の事例について学び、またカヌー体験の留意事項や役割を話し合った。

3日目、協力してカヌーを操船し、ライトコロ川の水面の魚や周囲の環境を観察しながら、河口のサロマ湖まで移動した。

3日目、協力してカヌーを操船し、ライトコロ川の水面の魚や周囲の環境を観察しながら、河口のサロマ湖まで移動した。

#### ■ 参加者の声（感想）

「ワッカの水がおいしかった。みんなと話しながら飲んで楽しかった。」（小4）

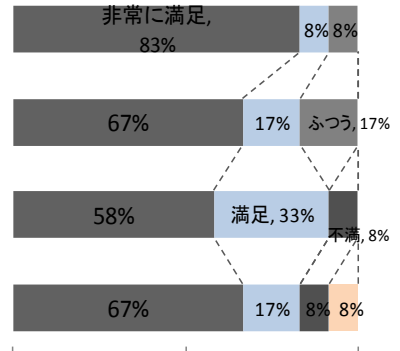
「サンゴ草が真っ赤になるころ、見に行こうと思います。」（小6）

「3日間の移動が自転車で辛かったけど、自然環境に優しいことだと思った。」（小6）

「原生花園には300種類以上の植物があることに驚いた。」（小5）

「地域には恵まれた自然があることに感動した。」（小4）

#### プログラムの内容に対する満足度



### 4 事業評価



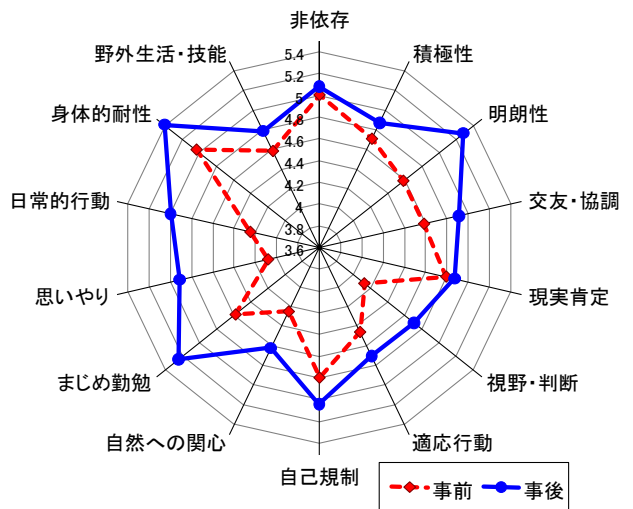
#### ■ 参加者の変容【I K R調査結果】

全ての調査項目にプラス値を示し、平均で0.4ポイントの向上が見られた。最も向上した項目は「思いやり」「日常的行動」が0.8ポイント。「明朗性」「まじめ勤勉」が0.7ポイント。「視野・判断」が0.6ポイントを示し、全体平均値よりも高い値を示した。

#### ■ 結果の分析・考察

自然とのふれあいや、各活動で仲間とのコミュニケーションを図っていく中で、他者と共感し、協力しながら「思いやり」や「明朗性」の項目が上昇したと推察される。

また自然観察を通して、知識の習得にとどまらず、諸問題や課題について自ら考え、判断し、行動し、成果を導き出そうとする意欲が増進したことから「まじめ勤勉」や「視野・判断」が向上したと推察される。



### 5 まとめ



#### ■ 成果

- 地域の自然環境保護活動や災害対策の事例などを事前学習に取り上げ、現地への移動や観察を直接的に行動していく中で、参加者は興味や関心を持続することができた。
- 体験活動や仲間と協同で学習する場面を多く取り入れたことで、仲間を思いやる気持ちや他との関わり方について学ぶことができた。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 日程通りに実施することができたが、小雨の中の自転車移動やアッケシ草の開花時期の遅れ等、天候や環境等によって左右されることから、より多くの代替活動及び日程調整等の組合せを事前に整理しておく必要がある。
- I K Rの結果では、予想していた「自然への関心」よりも「人間関係形成」や「意思決定」などの諸能力の方が高い値を示したため、プログラムの内容や組立て方を検討していく必要がある。